

平成 25 年度事業報告

活動の概況

東日本大震災直後の霞ヶ浦の放射能汚染への対応に追われた状態がやや収まり、改めて東日本大震災を踏まえて霞ヶ浦問題と正面から向き合う年となりました。放射能汚染問題は、水産業の風評被害を中心に深刻な状態が継続しており未解決のままですが、その解決に加えて東日本大震災の教訓を水資源開発管理や自治にどのように反映させ新しい時代を切り拓くかという基本的課題に向き合いました。

前年 11 月に参加した第 28 回水郷水都全国会議（新潟県津南）総会で、東日本大震災被災後の初めての開催の要請が当団体に寄せられ、霞ヶ浦での開催を決断しました。この問題を「私たちは、3.11 を乗り越えられるか」というテーマに込め全国規模で討論することにしました。

放射能汚染問題解決法として提案した常陸川水門操作による放射性物質の系外排出については、下流域や漁業者との話し合いを続けました。また、調査活動については、「エコーいばらき環境保全基金」の支援を受け湖底堆積物と魚類の放射性物質の調査を継続しました。

定期連続講座では、漁業問題や生物多様性を中心に漁業者や行政機関の担当者との対話を軸に、新しい時代の水資源管理や環境保全について討論を行いました。

1 生き物アカデミー

毎月一回、小学生を対象に霞ヶ浦湖岸で観察会等を行いました。各回の内容は以下のとおりです。また、開催時には毎回、霞ヶ浦湖岸に設置した定置網で魚類種組成の調査を行いました。定例会以外に水戸市沢渡川や巴川でも各地の観察会を各地の団体と共催しました。

- | | | |
|-----|-----|---|
| 4月 | 21日 | フナの産卵場を調べる |
| 5月 | 19日 | 田んぼの水路の魚をしらべる
午後天王崎観光交流センターへ移動、公開発表会を開催。 |
| 6月 | 16日 | 好きな方法で魚を取る |
| 7月 | 21日 | 釣りで霞ヶ浦の魚を調べる |
| 8月 | 18日 | 高浜入りのアオコを調べる |
| 9月 | 15日 | 高浜入りのアオコを調べる II |
| 9月 | 21日 | 沢渡川を採検する。 |
| 10月 | 20日 | ワカサギの釣りの仕掛けを考える。 |
| 11月 | 2日 | 巴川の魚類を調べる。 |
| 11月 | 19日 | 定置網漁業を研究する。 |
| 12月 | 15日 | 霞ヶ浦の問題を解決する |

- 1月19日 恋瀬川河口で野鳥を観察する
- 2月16日 魚の身体の仕組みを調べる
- 3月 9日 フナの産卵を調べる
- 3月16日 フナの産卵を調べる 2

2 霞ヶ浦定期連続増座

毎月1回 霞ヶ浦や環境問題に関する講座を開催した。参加者総数は151名。

第53回	4月21日	地域に根差した環境教育	富田 俊幸
第54回	5月19日	霞ヶ浦海夫の歴史	浜田 篤信
第55回	6月16日	現代の海夫と懇談する I	櫻井・山野
第56回	7月14日	逆水門の水質影響の研究史	浜田 篤信
第57回	8月18日	現代の海夫と懇談する II	海老沢武美
第58回	9月16日	どうなった、霞ヶ浦の放射能	浜田 篤信
第59回	10月20日	3.11を乗り越えて 水郷水都全国会議報告	荒井 一美
第60回	11月17日	湖沼のラムサール登録は？	浜田 篤信
第61回	12月15日	高浜入り干拓反対運動の真実	渡邊 章
第62回	1月16日	霞ヶ浦四十八津を解く	栗原 亮
第63回	2月16日	湖沼森林環境税と霞ヶ浦	庄司 仁
第64回	3月16日	いばらきの生物多様性地域戦略	山根 爽一

3 調査研究

(1) 自然の調査研究

- ① 底泥および魚類の放射能（セシウム134,137）調査
底泥調査は霞ヶ浦7地点で4、11月に実施
魚類：ワカサギ、アメリカナマズ、ニゴイ、モツゴ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ
- ② ウナギ減少の原因検討
2013年2月に絶滅危惧種IB類に指定されたウナギの資源減少の原因の一つとして霞ヶ浦開発の影響を検討した。その結果を会報14～16号に紹介した。

(2) 社会の調査研究

- ① 霞ヶ浦開発事業の評価研究
霞ヶ浦開発事業の事後評価の一環として常陸川水門の水質影響研究史に取り組んだ。成果を霞ヶ浦研究会報16に投稿した。
- ② 霞ヶ浦沿岸社会の歴史研究
霞ヶ浦定期連続講座を中心に江戸時代の海夫の歴史を検討し「海夫たちの霞ヶ浦6、7」として掲載した。

4 環境教育講座

問題解決を目指す参加体験型講座を「生き物アカデミー」で取り上げ実践した。12月「霞ヶ浦の問題を解決する」では、4グループで問題を設定し解決策を、3月「フナの産卵を調べる」では、よりよい産卵場の再生をテーマに討論するなどして環境教育の手法を学習した。

定期連続講座では、「地域に根差した環境教育」というテーマで

5 会報の発行

「海夫通信 14」：2013年5月18日発行

ウナギをめぐる冒険 I	浜田 篤信
農・住民運動家山口武秀との出会い	木村 陽一
海夫たちの霞ヶ浦 6	甲斐 博
霞ヶ浦定期連続講座平成25年度の予定	

「海夫通信 15」：2013年9月15日発行

ウナギをめぐる冒険 II	浜田 篤信
海夫たちの霞ヶ浦 7	甲斐 博
霞ヶ浦の未来	大崎 庸之
第29回水郷水都全国会議のお知らせ	

「海夫通信 16」：2013年2月16日発行

第29回水郷水都全国会議霞ヶ浦大会を開催しました。	
生き物アカデミー参加者の意見 大好きな霞ヶ浦	早川 哲人
ウナギをめぐる冒険 III	浜田 篤信

6 その他

水郷水都全国会議からの要請を受けて理事会で、続いて有志による準備会を開き当実行委員会を組織することを決めた。実行委員会において委員長および事務局長に当会の理事長および事務局長が選出され10月12～14日に大会を開催した。詳細は「海夫通信 16」に報告した。

環境保全、放射能問題や地域振興関係のシンポジウム、調査研究、広報等の活動に参加しました。

7 理事会・総会

(1) 総会 平成24年5月19日 15:30～16:15

開催場所：天王崎観光交流センター 出席者数13名、表決委任8名 事業報告・会計報告、事業計画および予算について質疑・承認

(2) 理事会および協議会

第1回	4月21日16:00～17:00	事業計画、総会、水郷水都との関係
第2回	5月19日17:30～18:20	前期の事業、他団体との協力、会報
第3回	6月16日16:00～18:00	放射能調査について

第4回	7月14日16:00~17:30	水郷水都会議関係、連続講座の進め方
第5回	8月18日16:30~18:00	助成金申請について、水郷水都発表課題
第6回	9月16日16:00~17:20	講座計画、放射能湖内調査について
第7回	10月20日16:00~17:00	次期執行体制について
第8回	11月17日16:00~17:30	生き物アカデミーをどう進めるか
第9回	12月15日16:00~17:50	次年度事業計画
第10回	1月16日16:00~17:00	次年度事業計画、次期役員について
第11回	2月16日16:00~18:00	次年度事業計画、会員拡大について
第12回	3月16日16:00~17:45	次年度事業計画、次期役員について

平成25年度決算書

特定非営利活動に係る事業

収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減(円)
繰越金	302,979	302,979	0
会費等	100,000	67,000	△ 33,000
事業収入	50,000	6,000	△ 44,000
寄付金	300,000	240,000	△ 60,000
助成金	500,000	370,000	△ 130,000
その他事業からの収入	50,000	0	△ 50,000
雑収入	1,000	16	△ 984
合計	1,303,979	985,995	△ 317,984

支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減(円)
事業費	720,000	357,698	
会議費	20,000	6,000	△ 14,000
報償費	450,000	260,000	△ 190,000
消耗品費	150,000	75,408	△ 74,592
印刷費	100,000	16,290	△ 83,710
管理費	583,979	236,827	
旅費	200,000	0	△ 200,000
事務費	150,000	160,727	10,727
通信運搬費	100,000	51,100	△ 48,900
会費等	50,000	25,000	△ 25,000
予備費	83,979	0	△ 83,979
合計	1,303,979	594,525	△ 709,454

次年度繰越金	336,962
普通預金	228,751
郵便振替	12,560
現金	279,131
未払金*	183,480

*未払金:実費弁償費

その他の事業

収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減(円)
事業費	500,000	0	
合計	500,000	0	

支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減(円)
事業費	400,000		
非営利活動繰入	50,000		
次年度繰越	50,000		
合計	500,000		

以上、報告します。

平成26年5月 日

非営利活動法人霞ヶ浦アカデミー
理事長 荒井 一美

報告第3号

平成25年度監査報告

平成25度における会計書類、帳簿、証拠書類および現金、預金を監査した結果、適正に処理されていたことを認めます。

平成26年5月 日

平成 26 年度事業計画 (案)

1 基本方針

東日本大震災で明らかとなったのは巨大な水管理システムの脆弱さでした。また津波による常陸川水門の倒壊や越波は免れましたが、上水を汽水湖のダム化に依存する現行の水資源管理システムの恐ろしさも思い知らされたところです。こうした「3.11」の教訓を踏まえて、以下のテーマを基本方針として活動を再出発させます。

- (1) 現行システムの事後評価
- (2) 開発事業の生物多様性影響評価
- (3) 新しい時代に相応しい水域の管理システムの確立

2 理事会等の運営

第 4 期を迎える今期は運営体制についても上記の活動を推進するために大きな見直しを行い、若い世代を中心に据えた布陣で再出発します。他団体や研究機関、行政機関との交流を推進し、活動で得られた成果は実践活動に活かし、持続可能な地域社会の実現をめざします。

。

3 特定非営利活動に係る事業

- 1 生き物アカデミー講座開催 年 1 2 回実施
霞ヶ浦における観察会を中心に魚類の採集や調査を行います。特に、湖岸の自然の再生について観察会や討論、提案等を行います。
- 2 環境教育指導者養成講座開催 年 2 回開催
霞ヶ浦で発生する環境問題の解決に資する参加体験型環境教育講座を開催します。
- 3 霞ヶ浦定期連続講演会 年 1 2 回開催
平成 20 年 11 月以来 64 回にわたって毎月一回開催してきた講座を、霞ヶ浦の環境、生物、歴史、開発等に関係するテーマについて継続実施します。
- 4 調査研究事業
 - (1) 霞ヶ浦放射能汚染調査
エコーいばらき環境保全基金の支援を受けて底泥や魚類の放射能調査、魚類への影響、放射能汚染の社会的影響について調査研究を継続実施します。
 - (2) 社会の調査研究
霞ヶ浦沿岸の江戸時代の治水・利水の調査を継続します。

霞ヶ浦開発事業の環境影響評価事後調査を続けます。

(3) 自然の研究

那珂川水系の生物多様性調査研究

開発事業の生物多様性影響について調査研究を継続します。特に東日本太平洋沖地震の影響を受けて環境が変化した那珂川下流域および涸沼について生物多様性への影響を調査します。

ニホンウナギの資源研究

絶滅危惧種 I B 類に指定された本種について、すでに研究を初め、その成果は会報で取り上げました。本種の保全には霞ヶ浦の適正な管理が必要であることが明らかになりつつあるので、より精度の高い研究に取り組み、ウナギ復活のための提言を行います。

(4) 定例調査

霞ヶ浦魚類調査および水質調査を継続して行います。

5 広報事業

会報の発行・ホームページによる情報公開の一層の充実をはかります。

その他の事業

調査研究の受託 水質や生物調査、水質調査等について受注します。

特定非営利活動

収入の部

費 目	前年度決算額(円)	予算額(円)	増 減 (円)
前年度繰越金	336,962	336,962	0
入会金・会費	67,000	100,000	33,000
事業費	6,000	20,000	14,000
寄付金	240,000	250,000	10,000
助成金	370,000	300,000	△ 70,000
その他事業からの繰入	0	50,000	50,000
雑収	16	1,000	984
合計	1,019,978	1,057,962	37,984

支出の部

費 目	前年度決算額(円)	予算額(円)	増 減 (円)
(事業費)	357,698	670,000	
会議費	6,000	20,000	14,000
報償費	260,000	300,000	40,000
調査旅費	0	150,000	150,000
消耗品費	75,408	100,000	24,592
印刷費	16,290	100,000	83,710
(管理費)	23,827	387,962	
旅費	0	50,000	50,000
事務費	160,727	200,000	39,273
通信運搬費	51,100	60,000	8,900
会費等	25,000	30,000	5,000
予備費	0	47,962	47,962
合計	594,525	1,057,962	463,437

議案第 3 号

役員改選